

令和4年度 学校評価 (中間評価)

本年度の重点目標		<ul style="list-style-type: none"> ○児童生徒の主体的な活動の推進及びその指導法の改善 ○保護者や地域との連携に基づく教育の充実 ○地域のセンター的機能の充実 	
項目担当	重点目標	具体的方策	中間評価
総務	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員駐車方法の明確化と駐車場の整備 ・校内掲示板の有効活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・年度始めに駐車方法のプリントを掲示し周知する。 ・定期的に全体又は個別に駐車の方法について説明する。 ・PTA との連携を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員駐車については、資料配布や掲示板での周知で職員に知らせることができた。また、メール配信で随時知らせることで、比較的スムーズに情報を発信できている。 ・工事などの進捗状況により駐車スペースが変更になり提示することが難しい面も多々あった。 ・教頭と連携を図って PTA 行事の準備を行う。
教務	<ul style="list-style-type: none"> ・授業時間の変更に伴う日課表(校時)及び教育課程の検討 ・新学習指導要領を基にした指導と評価の一体化 	<ul style="list-style-type: none"> ・45分授業の実施に伴い、実践を基に課題を整理し、改善を進める。 ・自立活動の目標を念頭に、個別の指導計画の各教科・領域等の目標を設定する。 ・学習指導要領の全面实施に伴い、三観点評価の充実を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各部、各校務分掌で課題を調査した。それぞれ工夫して取り組んでいる状況を共有し、さらなる改善を図っていく。 ・自立活動の目標が、個別の指導計画の目標につながっている様子が伺える。自立活動部と協力して、さらに充実させたい。 ・三観点を意識した目標設定による指導の充実、具体的な評価を定着させる。
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ・安全な通学環境の整備 ・防災、防犯体制の充実 ・いじめ、不登校の防止 	<ul style="list-style-type: none"> ・スクールバス12コースの安全管理、運行の適正化に努める。 ・交通安全指導を徹底し、事故防止に努める。 ・防災、防犯体制を周知し、共通理解、意識向上を図る。 ・児童生徒の状況について教職員間で共通理解を図り、組織で対応する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・概ねスムーズに運行できている。来年度のコースに対応して早くから計画を立てていく。 ・高等部の自転車通学生で軽微な事故があった。一宮警察と連携しながら交通安全指導を進めていく。 ・訓練については予定どおり実施できた。感染症対策をしながら関係機関との連携も図っていく。 ・高等部で友人関係でのトラブルがあった。重大事案に繋がらないよう関係教員で連携をしながら取り組むと同時に未然防止、早期発見に努める。
進路指導	<ul style="list-style-type: none"> ・小学部から高等部までの組織的、系統的なキャリア教育の推進と充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路デイズの周知や内容の充実、ニーズに応じた進路情報の提供方法の工夫等を通して、保護者の進路指導に対する意識を高める。 ・教職員に対しての本校進路指導の流れの周知、ビジネスマナーの確認等の機会を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業生を招いた進路デイズ、昇降口付近でのパンフレットラックの活用等、おおむね好評だった。進路デイズは、次年度会場として食堂の使用ができないため、複数教室を使用した計画をする。 ・現職研修等で進路に関しての内容を具体例に示しながら説明したことで、小中学部教員の進路指導に関する意識が向上

	<ul style="list-style-type: none"> 卒業後の生活を見据えた地域との連携と充実 	<ul style="list-style-type: none"> 他分掌と連携し、早期から児童生徒の抱える課題を関係諸機関と情報共有し、地域の支援体制を整える。 雇用予定のある企業を積極的に開拓し、生徒に合った職域の確保をする。 	<p>した。</p> <ul style="list-style-type: none"> 校内外での会議への参加、進路先の情報共有などを複数の教員で行った。昨年に続き、複数の機関より、生徒や教員への講話や勉強会の提案もいただき、支援体制が整いつつある。 職場開拓による協力企業が増え、体験実習や雇用の検討につながられている。
保健体育	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の健康づくりの推進 食物アレルギー対策の強化 安全環境整備 	<ul style="list-style-type: none"> 食事や運動に関する指導を充実させ、望ましい生活習慣を意識させる。 担任、養護教諭、保健体育部、学校栄養職員による指導体制の整備を行う。 職員管理場所の清掃の際に安全点検も兼ねて清掃を実施し、きれいな学校づくりを目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 全校に関することは保健だよりで、個別の内容は担任を通じて児童生徒や家庭に働きかけている。 現職研修を通して周知を図っているが、ヒヤリハットが発生している。事例検証するとともに、安全対策の一層の強化に取り組む。 きれいな学校づくりの意識が高まってきた。
研修	<ul style="list-style-type: none"> 教職員の専門性の向上 	<ul style="list-style-type: none"> 現職研修の充実を図る。 新しいテーマの全校研究を円滑に進める。 	<ul style="list-style-type: none"> アンケートを参考に現職研修を計画、実施した。実施内容、方法を工夫することで、肯定的な意見を多くもらっている。今後も主体的に受けられる研修を計画していきたい。 1学期は ICT 機器への関心をもつことができるよう、Web 会議システムの体験、さまざまなアプリ、ソフトなどの勉強会を実施した。今後は ICT を活用して授業実践を行っていく。
視聴覚	<ul style="list-style-type: none"> 視聴覚機器の有効利用の推進 感染予防に努めながらの図書室運営 	<ul style="list-style-type: none"> 視聴覚準備室や視聴覚機器を使いやすく整備する。 破損した蔵書の補修を行う。 新しい図書を購入し、児童生徒の指導に役立つ図書を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> リモート授業が円滑にできるように機器を整備した。学校祭に向けて更に充実させたい。 新規図書を購入して貸し出し準備を進めた。パソコンを使った貸出方法の準備ができたので、教員に周知していきたい。
情報	<ul style="list-style-type: none"> 教員の情報活用技能およびセキュリティ意識の向上 情報モラル教育の充実 GIGA スクール構想による ICT の活用のサポート 	<ul style="list-style-type: none"> 教員用タブレットパソコン等の利用について、有効活用やトラブル等への日常的なサポートを行う。 担任や学年、生徒指導部等との連携を密にして、情報モラル教育を進めている。 児童生徒の一人1台タブレット端末の利用環境や利用規定を整備する。 	<ul style="list-style-type: none"> トラブル対応など、日常的に教員に向けてサポートができた。 保護者や生徒に向けた情報モラルアンケートを実施した。アンケートの結果を担任等と共有したり、保護者に紙面で配付したりした。 児童生徒の一人1台タブレット端末の使用について、全校教員の意見を反映させながら、利用規定の整備を進めている。

<p>教育支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・校内支援の充実 ・センター的機能の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校だけで解決が難しい問題に対して、チームで解決を図れるような体制を整える。 ・地域の小・中学校の保護者や教員を対象に、たんぼぼ相談や巡回相談、研修会等を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現職研修で SC・SSW やサポート会議の役割を周知したことで、関係機関や教員間で連携して支援をする事例が増えている。今後も校内外をコーディネートする役割を担っていきたい。 ・たんぼぼ夏季相談、出張相談を行った。多くの教員が相談業務に携わることで、スキルアップを図ることができた。 ・自立活動をテーマにした夏季研修会を実施し、概ね好評であった。アンケートをもとに次年度の研修内容を検討する。
<p>自立活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自立活動に関する情報の収集と発信 ・学習指導支援の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・自立活動の指導内容や支援の方法について、情報を収集、紹介することで、教職員の自立活動に対する意識を高め、保護者への理解と協力を求める。 ・自立活動の教材・教具を研究、整理し、授業等で有効活用できるよう紹介する。 ・流れ図・個別の年間指導計画の作成手順を共通理解できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・研修会「じかつ☆ラボ」を開催した。今後も長期休業等に研修会を開催し、教員の専門性を高めたい。また、通信で情報を発信した。今後も保護者、教員のニーズに合った情報を発信したい。 ・各教室で使える教材・教具について引き続き開発、紹介していく。 ・じかつ☆マニュアルを作成、配布した。今後も自立活動の指導の流れを周知できるようマニュアルの見直しをする。
<p>小学部</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣や日常生活における基本的な力の育成 ・家庭と連携した安全で安心な支援体制づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の発達段階を自立活動のチェックリスト等を活用して捉え、個々の指導計画を基に、学校生活全般の中で指導を行う。 ・毎日の健康観察、目を離さない行動観察を継続し、体調不良やけが等の家庭への確実な情報提供や情報収集を図り、安全な支援体制を構築する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自立活動の指導を軸に、学年会やケース会等で児童の実態、指導内容を共有しながら、指導を進めている。 ・ヒヤリハット事例等を教員間で情報共有し、保護者により安心感を与えられる体制づくりができるように意識をしている。
<p>中学部</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣を育成し及び社会生活を営む上での基礎的な能力の向上 ・生徒全員が「分かった」「できた」「やってみよう」と思える授業づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶や返事、ルールや約束事の意識、相手を思いやる気持ち等の育成を家庭と連携を密に図りながら、学校生活全般を通して指導する。 ・生徒の実態や障害の特性に合った題材や単元を考えたり、教材・教具の工夫や環境整備をしたりすることで生徒自身が課題を理解し、自分から取り組めるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の学校生活、又は実践を通じた教師や友達との関わりの中で、場面や状況に応じて挨拶や返事、ルール等について適切に伝えていくことでそれぞれの生徒の意識が高まっている。 ・生徒たちの実態について学年の教師間で情報を共有することで、生徒たちの興味関心や実態に即した課題を設定し、自ら取り組む姿が見られた。
<p>高等部</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自立と社会参加を促す力の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業後の生活を見据え、自立活動の視点を踏まえて、生徒一人一人の適性に合った支援を行う。 ・学校生活におけるさまざまな行事や活動を通して、基本的な生活習慣の確立を図るとともに、社会生活を営む上で必要な力を身に付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自立活動の時間における指導が二年目に入り、各生徒が自分の課題を意識し、改善に向けて主体的に活動に取り組む様子が見られるようになってきた。 ・コロナウイルス感染防止を図りながら野外活動や修学旅行を三年ぶりに宿泊で実施し、公共の場でのマナーや集団行動、身の回りの整理などについて、実際の場面でより深く学ぶことができた。

学校関係者評価を実施する 主な項目	<ul style="list-style-type: none"> ・笑顔のある安全・安心な学校づくり ・12年間を見据えた、継続性・系統性を考慮した教育活動の推進 ・勤務時間の適正な管理及び長時間労働による健康障害防止に関する取組
----------------------	--

【学校関係者評価を実施する主な項目】

項 目	中 間 評 価
笑顔のある安全・安心な学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症対策を徹底し、体温測定や手指消毒を行い健康管理に努めた。 ・防災訓練や不審者対応訓練を実施し、緊急時に落ち着いて素早い行動ができるよう全教職員で対応を確認した。
12年間を見据えた、継続性・系統性を考慮した教育活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の指導計画の様式を変更し、自立活動の目標が個別の指導計画の目標につながるよう意識することができた。 ・「自立活動だより」等で自立活動の様子を保護者に伝え、将来を見据えた課題設定が保護者と共にできるようにしたい。
勤務時間の適正な管理及び長時間労働による健康障害防止に関する取組	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月の勤務時間を把握し、特に時間外勤務が多い教員には体調や睡眠時間などを確認した。月2回の定時退校日や電話対応時間の設定を引き続き行った。